



わになって

幕別町発達支援センター

令和7年度
第6号

令和8年3月13日発行

日中の日差しが少しずつ温かくなり、春の訪れを感じるが増えてきました。進級や進学を控え、期待と不安が入り混じる時期かと思えます。

この節目の季節に1年を振り返ってみてはいかがでしょうか。毎日一緒に過ごしていると、お子さんの成長には気づきづらいものですが、4月と比べると「こんなことができるようになった」と変化に気づくことができると思えます。1年間の成長を振り返りながら、笑顔で新年度を迎えたいですね。

保護者の皆様、並びに関係機関の皆様、発達支援センターの運営にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございます。

お知らせとおねがい



- ＊3月30日～4月7日の期間は、新年度準備、個別支援計画会議などのため療育はお休みになります。なお、相談等の業務は行っております。
- ＊4月以降の療育日程及び担当につきましては、決まり次第速やかにお知らせいたしますので、ご了承ください。
- ＊事業所評価のご協力ありがとうございました。ご回答いただいた内容は、事業所の評価および改善のために活用いたします。また、3月末にセンター内に掲示し、町ホームページ等にも掲載いたします。



カラフルのご紹介



(子どもの育ちをささえる親の会)

年齢や通っている保育所・幼稚園・学校は違っても、子育ての悩みや不安は一緒。そんな子育てに奮闘している町内の保護者が集まり、気軽に話せる場所です。先輩お母さんと顔見知りになることで“つながり”を感じられると思います。

どんなことをしているの？

年に数回行われる座談会では、学校や保育所、幼稚園、家庭での様子を話したり、子育ての不安について、先輩保護者さんから実体験を含めてアドバイスをいただいています。託児もありますので、ぜひ気軽にご参加ください。

新年度改めて親の会への案内がありますので、興味がある方は担当にお声かけください。

参加した保護者からの声

- ☆悩みに共感してもらえて安心しました。
- ☆いろいろな年代の子どもがいる保護者が来るので、幅広い話を聞けてとても勉強になりました。
- ☆他の学年のお子さんの様子を知れるのはとても貴重です。
- ☆気持ちが軽くなりました。
- ☆進級に対する不安などを話せてよかったです。
- ☆いつも時間が足りないと思うくらい楽しいです。



OTコラム『感覚 × 運動 × 環境』の話

文：江波

今年度は3回に分けて作業療法士から見た子どもの捉え方をお伝えしています。いよいよ最終回です。前回まで、【気持ち】と【運動】と【脳】の成長はそれぞれに関係があり、様々な経験をすることで、脳が成長するのに必要な【感覚】という栄養が得られるというお話をしました。

今回は【環境】という視点から【感覚】と【運動】を育てるために知っておいてほしいこととお話します。(今回のお話は、私が日々感じていること(主観)が多くなっていることをご了承ください。)

【環境】とは「身の周りの自分以外のすべての物・事柄」です。子どもから見たら、身の周りの物や自然だけでなく、保護者やその他のヒト、時代の変化などの見えないものも環境に含みます。

「運動のできない子どもが増えた」と耳にすることがあります。実際に30年前と比較すると身長や体重は増えているのに体力や運動能力は低くなっていると言われていました。

この30年で子供を取り巻く【環境】は…

- ・子どもの数の減少 ⇒ 大人が目が届きやすい ⇒ 危険への(過度な)配慮 ⇒ チャレンジのチャンスが減る ⇒ チャレンジの意欲が下がる
- ・バリアフリー ⇒ 道路は綺麗な舗装で家の中も段差がない ⇒ ハイハイで段差を越えたり、バランスを取りながら歩くことが少ない ⇒ 踏ん張ったり転ぶことが少ない
- ・遊びの変化(外遊びからゲームや動画などへ) ⇒ 身体を動かすよりも楽しく疲れない

私達大人が子どもの頃に意識せずに行っていたことを、今の子どもたちは自然に見つけるのが難しい【環境】で育っています。これは、ご家庭だけでなく保育所や幼稚園においても、成功できるように援助しすぎると失敗することに憶病になってしまうこともあります。

- ・転ぶ前に声をかけるより、転んでから手を差し伸べたり、自分で立つまで待つ。
- ・草の中を歩いたり、ソファの下に座布団を置いてあえて飛び降りてみたくなる環境を作る

上は一例ですが、小さなケガをしながらもチャレンジや失敗ができるような【環境】を用意することが今を生きる子どもたちにはとても大切なのではないのでしょうか。その【環境】が【運動】と【感覚】を育てるのに必要だと思います。



遊びは学び

文：水上



「わになって」では、1年間に渡って遊びの紹介をしてきました。日々の療育でも、遊びを通してお子さんに働きかけています。それは、お子さんの体、心、ことば、人との関わりなどの成長には”遊び”が必要だと考えているからです。

先日、所属に訪問したとき、子どもたちがこま回しをしていました。始めは2,3人で始まったのですが、少しずつ人数が増え、お部屋全体にこま回しをする子どもが広がっていきました。どうやったら上手く回るのか試行錯誤している子、友達同士でこまの回し方を教え合っている子、「せーの!」で競争し合っている子…など、1つの遊びの中で様々な姿が見られました。

自分で「やりたい」と思い取り組む、友達と関わり合う、自分なりに考え工夫する、相手と比べる、わくわく感や上手いかないことも含め、何にも変えることはできない学びだと思います。

お子さんが遊ぶとき、ケガなどがないように見守ることもあるかと思いますが、昔夢中になった遊びを思い出して、たまには子どもと一緒にやってみてはいかがでしょうか。一緒に遊ぶことで、遊びの大切さを感じられるかもしれません。

